

## 健苗を植えて早期活着と初期生育の確保に努めよう

## － 技術のポイント －

- 品質・収量を安定させるため、耕うん・代かき作業は丁寧に行う
- コシヒカリは5月10日頃からの好天日に田植えを行う
- ◎ 移植前追肥(べんとう肥)の実施で活着を促進する(特に一発基肥体系では重要)
- ◎ 地力の条件に応じて栽植密度、植付本数をほ場ごとに調整する
- 活着までは保温的深水管理で植え傷みを抑え、その後は浅水管理で分けつ発生を促進する
- 除草効果の確保と薬害の発生防止のため、除草剤は適正に使用する

## 1 丁寧な耕うん・代かき作業 ～耕深確保で根を深く張らせよう～

- 乾いた状態で丁寧に耕耘すると耕深が一定となり、均一な生育の確保につながります。
- 作土深 15 cmを目標に深耕を心がけましょう。深耕で作土が深くなると根域が広がり、根を深く張って倒伏に強く品質、収量が安定します。
- 代かき時の水位は、節水、浮きワラ対策等のため、田面の高い部分が十分みえる程度の浅水としましょう。
- 水持ちの悪いほ場では、代かきを行う回数を1回増やすなど入念に行いましょう。ただし粘土質土壌などでは、酸素不足にならないよう練りすぎに注意しましょう。
- ※ 基肥一発肥料(コーティング肥料)を使用する場合、代かきは浅水で行い、落水する際は河川に流出しないよう自然落水を行いましょう。また、前年の殻が浮いてくる場合は河川に流さずに、可能な限りすくい取りましょう。

## 2 適期田植え ～いい日旅立ち、好天日田植え～

- コシヒカリの早植えは出穂期が早くなり、高温登熟となりやすいことから、乳心白粒の多発生による品質・食味の低下を招きます。



品質・食味の高い「岩船米」を生産するため、早生は5月1日頃以降、コシヒカリは5月10日頃以降の好天日に田植えを行いましょう。

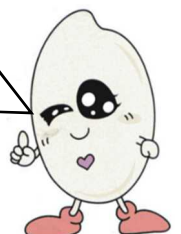
- 密植や大苗にすると過繁茂しやすくなり、倒伏や乳心白粒の発生を助長します。
- 深さ2～3cmに植え付け、早期活着、良質茎確保により品質は向上します。



1株 3～4本植え、コシヒカリの栽植密度は50株/坪(低地力ほ場では60株)、早生品種では60～70株/坪を目安に地力等の条件に応じてほ場ごとに調整し、2～3cmの深さで植えましょう。

① 田植えの4～5日前に箱当たりチッソ成分1～2gの移植前追肥(べんとう肥)を実施し、活着・初期生育を促進しましょう。

② いもち病が発生しやすい地域、品種では必ず育苗箱施用剤による葉いもち予防を実施しましょう。



### 3 田植え後の水管理 ～初期生育確保のターニングポイント～

- 品質の良い米を生産するためには、早期に分げつを発生させることが重要です。この時期は用水が冷たいので、「早朝のかん水と日中の止め水」を励行しましょう。

#### ☆ 植え傷みを防止し、初期生育を早期に確保するためには？

- ① かん水は早朝に行い、日中は止め水として水温上昇と保温に努める。
- ② 活着までの間は、やや深め（3～4 cm）の水管理で苗を保護する。
- ③ 活着後は、浅水管理（2～3 cm）で水温上昇を図り、分げつの発生を促進する
- ④ 低温や強風の時は、一時的に深水にして保温（苗の保護）する。

### 4 用水の更新（夜間落水）で根の健全化を！ ～ワキ防止対策～

- 稲わらを舂すき込みしたほ場などでは、気温の上昇に伴いワキ（生わら等の分解により発生する有害なガス）が発生し、根腐れや生育停滞を起こします。
- 用水の更新（夜間落水）を図りガス抜きを行い、根の健全化に努めましょう。

#### ワキの発生程度とその対策（昭 55、新潟農試）

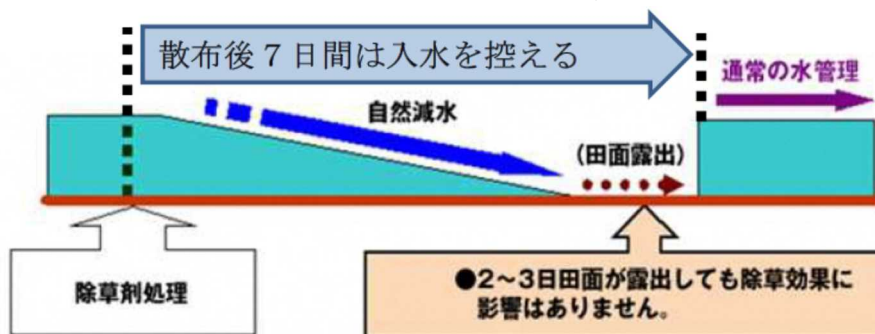
ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	6月上旬までの対策 注)
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生がみられる。	なし	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	用水の更新（夜間落水）
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	用水の更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。また水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害、地上部黄化	間断かん水

注) ただし、用水が不足する場合、落水は最小限とし、節水を心がける

### 5 雑草防除 ～除草剤の効果を最大限に発揮して効果的な防除～

- ほ場条件・対象雑草に合った除草剤を選び、注意書き（使用時期、使用量、使用方法など）を良く読んで、正しく使いましょう。

- (1) 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均一にしましょう。
- (2) 初期剤は、河川等への流出を防ぐため、田植え時または田植え後に散布しましょう。
- (3) 雑草の葉齢をよく確認し、散布適期の範囲で早めの散布を心がけましょう。
- (4) 散布後は、剤にあわせた水深（粒剤は3～5 cm、フロアブル剤は5 cm程度、ジャンボ剤・豆つぶ剤は5～6 cm程度）を確保しましょう。処理後7日は止水（落水、入水を控える）とし、4～5日間は湛水状態を保ちましょう。



☒ 除草剤散布の水管理イメージ

#### ☆ヒエは田植え後5日（代かき後、1週間程度）で1葉になります。

初期剤と初・中期一発剤の体系処理を実施している場合、雑草が見えないからといって初期剤散布からあまり長く日を置き過ぎずに一発剤を処理しましょう。中干しが早期に実施できます。

気温が高いとノビエの生長も早まります。散布遅れにならないよう注意しましょう！